



2004年度第3四半期業績概況 説明資料

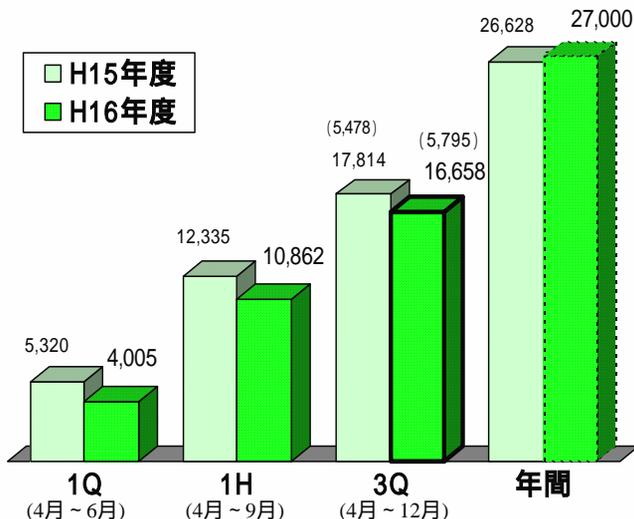
2005年 2月

2004年度 第3四半期 業績概要

(億円)

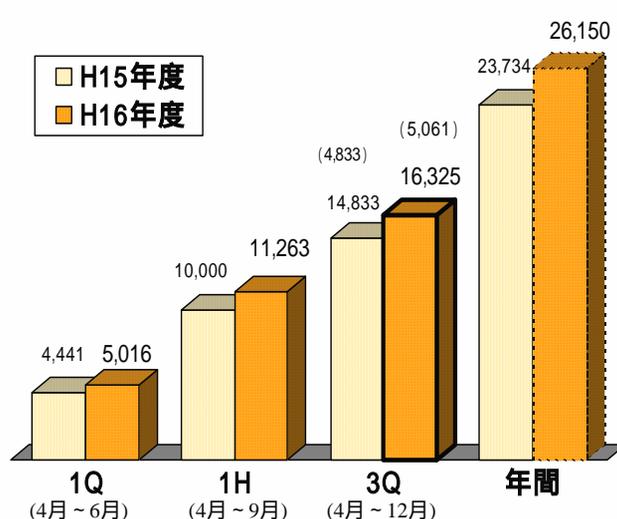
受注高

・1Q は第1四半期(4月～6月)を示す
 ・1H は中間期(4月～9月)を示す
 ・3Q は9ヶ月(4月～12月)通算を示す
 内、()は第3四半期(10月～12月)を示す



売上高

・1Q は第1四半期(4月～6月)を示す
 ・1H は中間期(4月～9月)を示す
 ・3Q は9ヶ月(4月～12月)通算を示す
 内、()は第3四半期(10月～12月)を示す



【受注状況】

第3四半期までの累計実績は、大型受注案件が前半に集中した前年同期をやや下回っているが、新造船や大型発電設備並びに中量製品のフォークリフト、汎用エンジン、印刷機械等の受注が堅調であり、ほぼ計画値に沿って推移。

【売上状況】

新造船引渡し隻数増加および台湾新幹線や大型発電設備の工事進捗、中量産品事業の伸張等により、第1～第3四半期までのいずれも前年同期を上回っており、年間見通しも前年度を上回る見込み。

(億円)

【連結】	平成16年度 第3四半期実績	平成15年度 第3四半期実績	増減
受注高	16,658	17,814	1,155
売上高	16,325	14,833	1,491

【参考】

(億円)

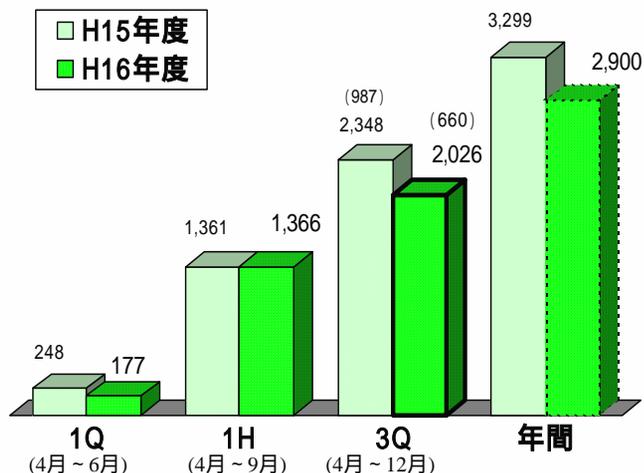
【単独】	平成16年度 第3四半期実績	平成15年度 第3四半期実績	増減
受注高	12,948	14,003	1,054
売上高	13,141	11,622	1,519

船舶・海洋

(億円)

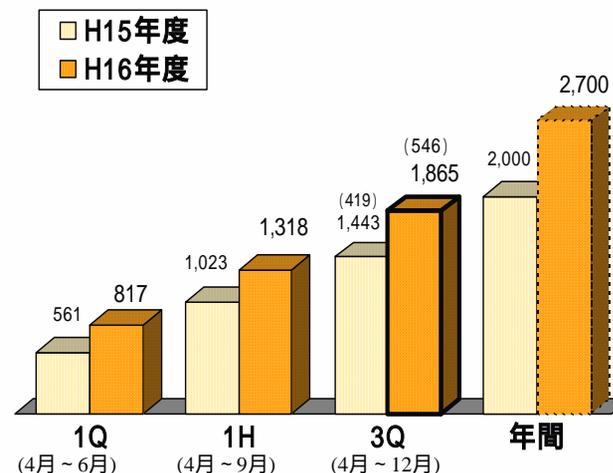
受注高

・1Q は第1四半期(4月～6月)を示す
 ・1H は中間期(4月～9月)を示す
 ・3Q は9ヶ月(4月～12月)通算を示す
 内、()は第3四半期(10月～12月)を示す



売上高

・1Q は第1四半期(4月～6月)を示す
 ・1H は中間期(4月～9月)を示す
 ・3Q は9ヶ月(4月～12月)通算を示す
 内、()は第3四半期(10月～12月)を示す



[受注状況]

・LPG船5隻、LNG船1隻他、計15隻を受注した前年同期を下回っているが、当年度の第3四半期はサリ向けLNG船2隻を含む計7隻を新たに受注。
 ・造船市況は依然として好調であり、得意とするLNG船等を中心に受注活動を展開中。(契約残隻数67隻 内、LNG船12隻)

[受注隻数(単独)]

	1Q	1H	3Q	年間
H15	2隻(122KGT)	16隻(1141KGT)	31隻(2006KGT)	38隻(2448KGT)
H16	3隻(26KGT)	10隻(705KGT)	17隻(1071KGT)	

[売上状況]

・引渡し隻数が前年同期を上回っており、第3四半期は累計で前年同期比約29%の増収。
 年間でも大幅な増収となる見込み。

[引渡し隻数(単独)]

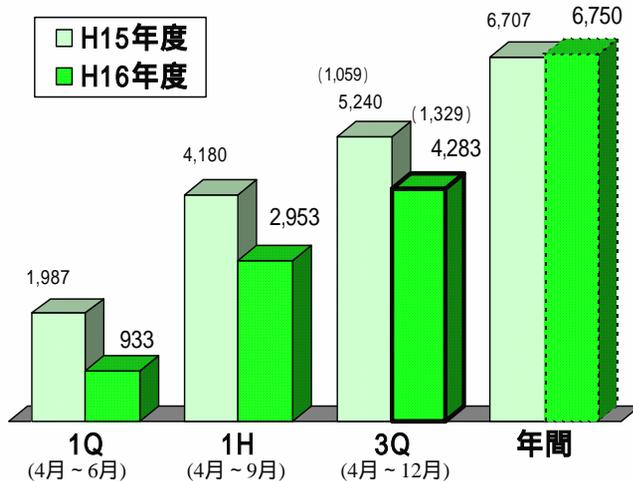
	1Q	1H	3Q	年間
H15	4隻(166KGT)	8隻(435KGT)	14隻(568KGT)	21隻(871KGT)
H16	7隻(385KGT)	12隻(802KGT)	15隻(1084KGT)	

原動機

(億円)

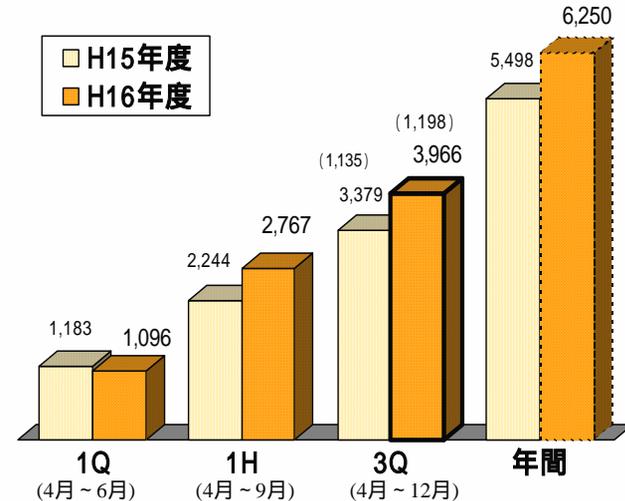
受注高

・1Q は第1四半期(4月～6月)を示す
 ・1H は中間期(4月～9月)を示す
 ・3Q は9ヶ月(4月～12月)通算を示す
 内、()は第3四半期(10月～12月)を示す



売上高

・1Q は第1四半期(4月～6月)を示す
 ・1H は中間期(4月～9月)を示す
 ・3Q は9ヶ月(4月～12月)通算を示す
 内、()は第3四半期(10月～12月)を示す



[受注状況]

・前半に大型発電設備の受注が集中した前年同期を下回っているが、欧州、アジアを中心に環境負荷が低く、高効率のガスタービン・コンバインドサイクル発電設備の需要が堅調であり、年間では、ほぼ前年度並みの水準を見込んでいる。

[売上状況]

・大型発電設備の工事進行基準進捗見合いの売上増加等により前年同期比で約17%の増収。
 年間でも増収となる見込み。

[ガスタービン契約残台数 (単独)]

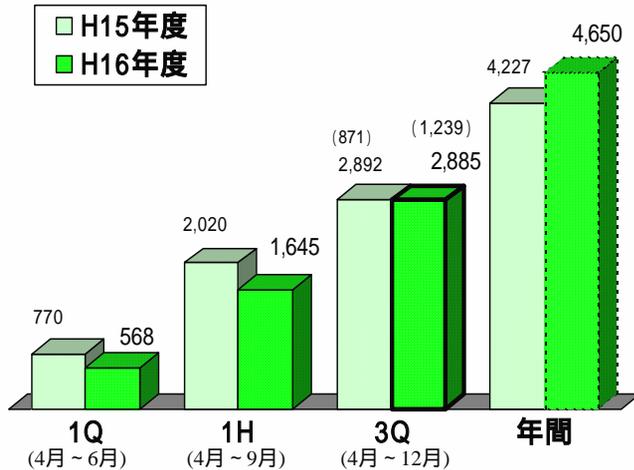
	1Q	1H	3Q	年間
H15	52台	55台	54台	54台
H16	57台	56台	56台	

機械・鉄構

(億円)

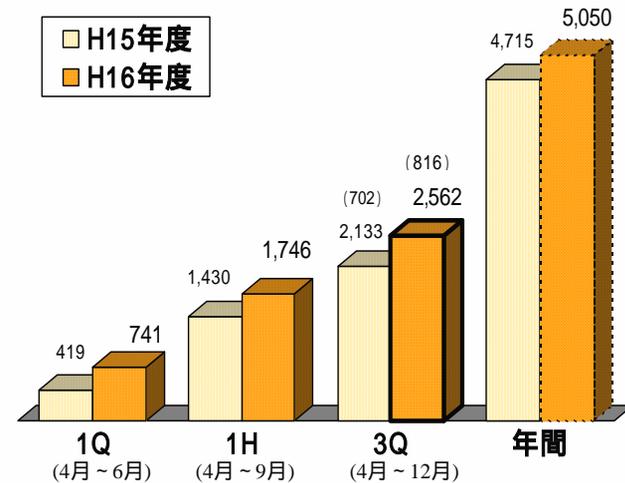
受注高

- ・1Q は第1四半期(4月～6月)を示す
- ・1H は中間期(4月～9月)を示す
- ・3Q は9ヶ月(4月～12月)通算を示す
内、()は第3四半期(10月～12月)を示す



売上高

- ・1Q は第1四半期(4月～6月)を示す
- ・1H は中間期(4月～9月)を示す
- ・3Q は9ヶ月(4月～12月)通算を示す
内、()は第3四半期(10月～12月)を示す



[受注状況]

- ・第3四半期はオマーン向け大型肥料プラントを受注計上したことなどにより、前年同期並みの受注水準となっている。
- ・国内は公共投資の縮減傾向により厳しい受注環境であるが、海外向け化学プラントや新交通システムの需要は堅調であり、年間では前年度を上回る受注を見込んでいる。

[売上状況]

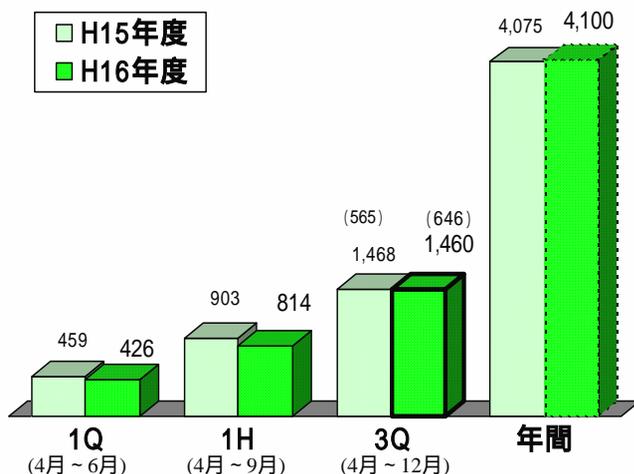
- ・台湾新幹線の工事進捗に伴う売上増加などにより前年同期比で約20%の増収。

航空・宇宙

(億円)

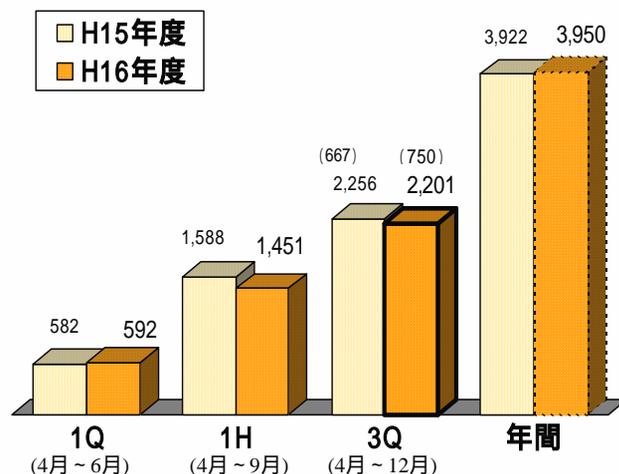
受注高

・1Q は第1四半期(4月～6月)を示す
 ・1H は中間期(4月～9月)を示す
 ・3Q は9ヶ月(4月～12月)通算を示す
 内、()は第3四半期(10月～12月)を示す



売上高

・1Q は第1四半期(4月～6月)を示す
 ・1H は中間期(4月～9月)を示す
 ・3Q は9ヶ月(4月～12月)通算を示す
 内、()は第3四半期(10月～12月)を示す



[受注状況]

- ・当セグメントは年度末に受注が集中する傾向があるが、第1から第3四半期までは、ほぼ前年同期並みの水準。
- ・民間航空機関連の受注環境も回復基調にあり、年間でも前年度並みの水準となる見込み。

[売上状況]

- ・売上についても、第3四半期までの累計および年間で、ほぼ前年度並みとなる見込み。

[B777 引渡機数]

	1Q	1H	3Q	年間
H15	10機	21機	29機	39機
H16	8機	18機	27機	

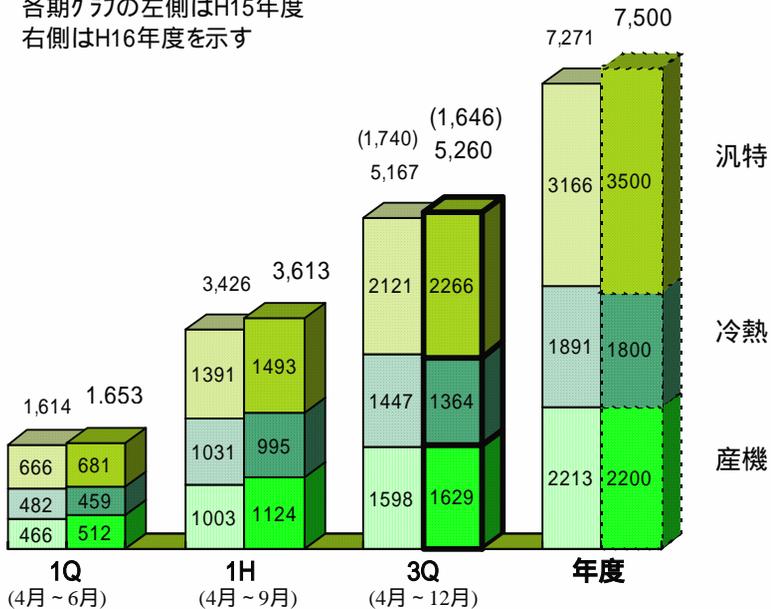
中量産品

(億円)

受注高

- ・1Q は第1四半期(4月～6月)を示す
- ・1H は中間期(4月～9月)を示す
- ・3Q は9ヶ月(4月～12月)通算を示す
内、()は第3四半期(10月～12月)を示す

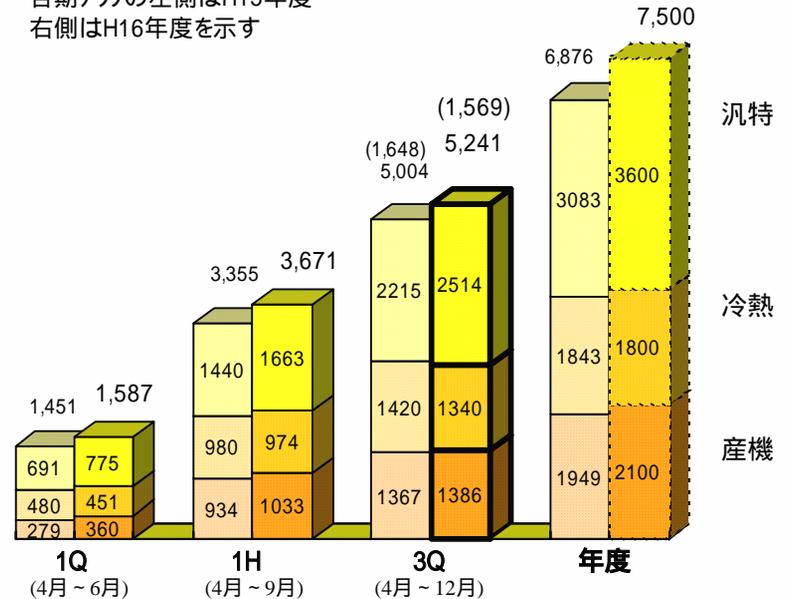
各期グラフの左側はH15年度
右側はH16年度を示す



売上高

- ・1Q は第1四半期(4月～6月)を示す
- ・1H は中間期(4月～9月)を示す
- ・3Q は9ヶ月(4月～12月)通算を示す
内、()は第3四半期(10月～12月)を示す

各期グラフの左側はH15年度
右側はH16年度を示す



[受注状況]

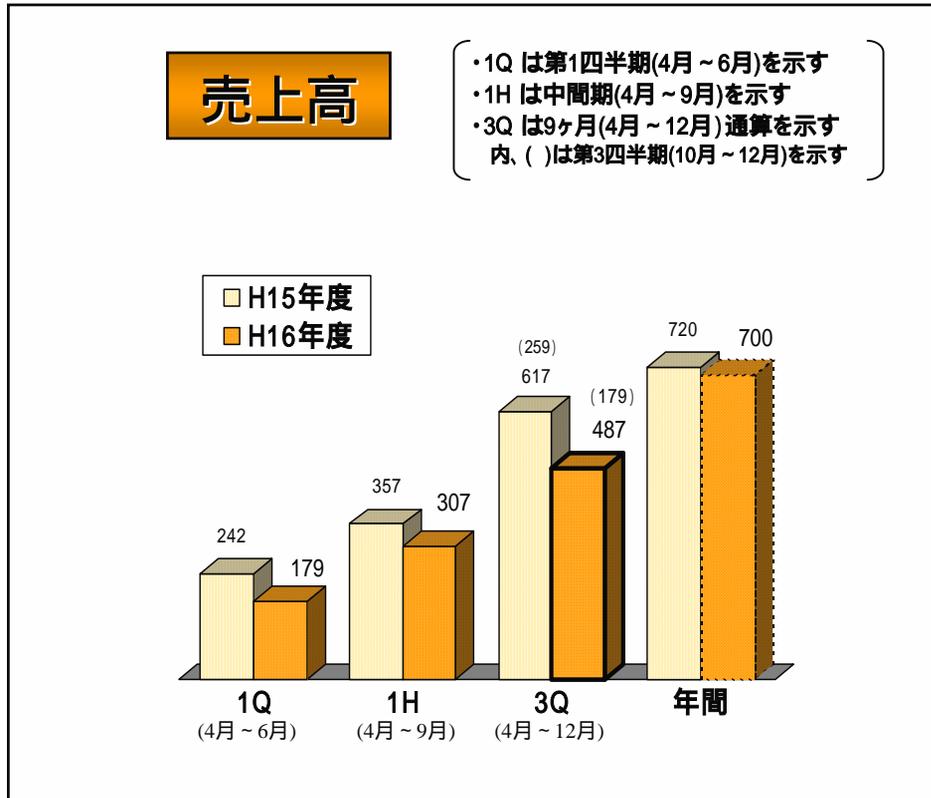
・汎特(フォークリフト、汎用エンジン等)を中心に、堅調であった前年度を更に上回る受注状況。
製品毎に市場環境の違いはあるが、総じて好調な受注を継続。

[売上状況]

・受注同様、汎特(フォークリフト、汎用エンジン等)や国内の印刷機械を中心に前年同期を上回る売上となっており、年間でも増収となる見込み。

その他

(億円)



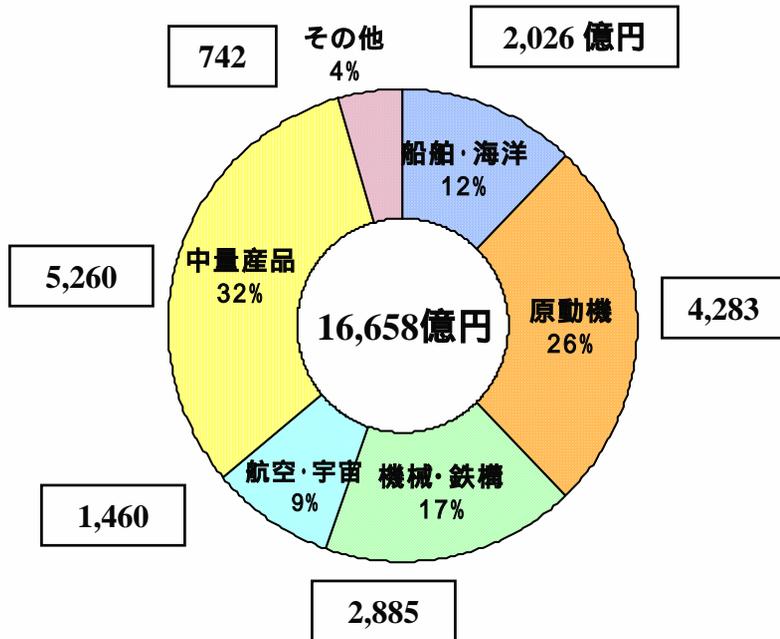
- ・建築・不動産
- ・情報・通信サービス
他

連結セグメント別の状況

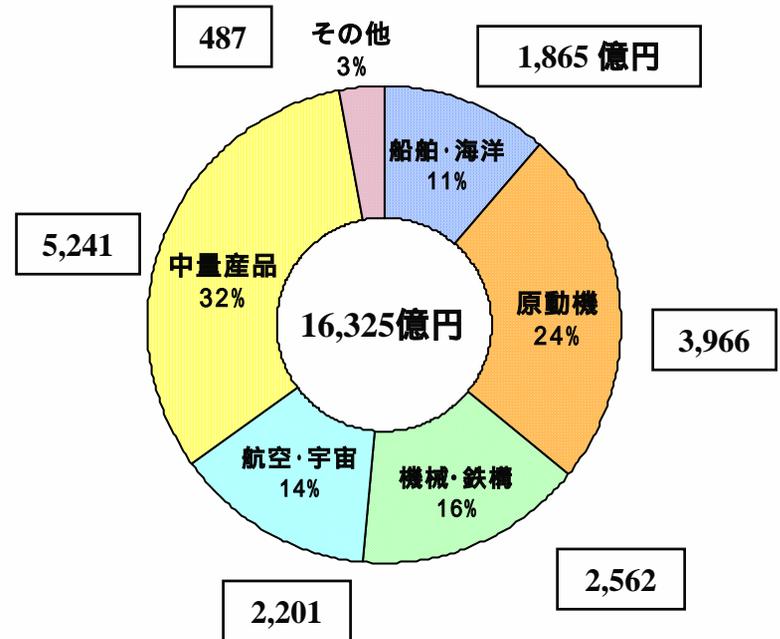
(2004年度第3四半期：9ヶ月通算)

(2004.4.1 ~ 2004.12.31)

受注高



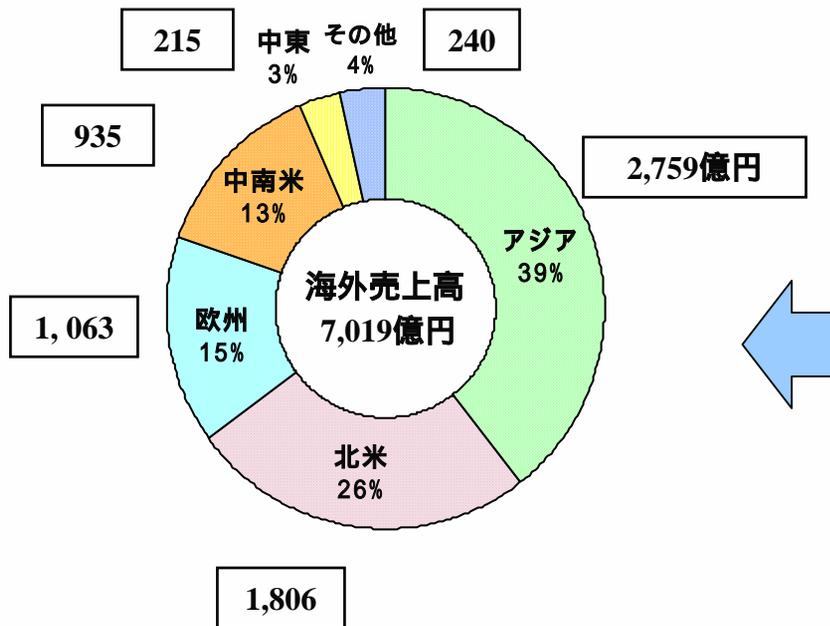
売上高



海外地域別連結売上高

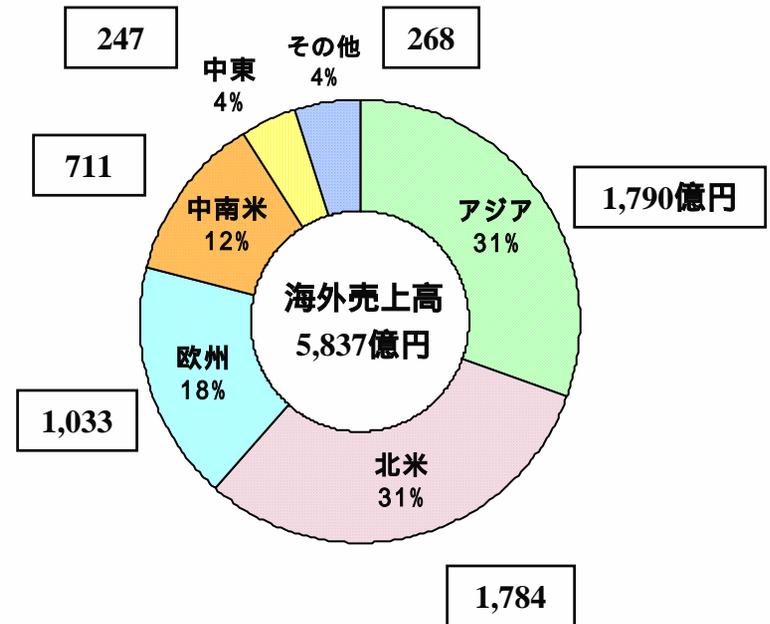
2004年度第3四半期
(9ヶ月通算)

(2004.4.1 ~
2004.12.31)



【参考】2003年度第3四半期
(9ヶ月通算)

(2003.4.1 ~
2003.12.31)



2004年度 通期の業績見通し(連結)

(年度)

(単位:億円)

	'04		
	中間見通し	今回見通し	増減
受注高	27,000	27,000	-
売上高	26,000	26,150	150
営業損益	550	350	200
経常損益	370	170	200
税引前損益	370	170	200
当年度損益	220	100	120

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみにより投資判断を下すことは控えるようお願い致します。実際の業績は様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることを御承知おき下さい。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社の事業領域をとりまく経済情勢、対米ドルをはじめとする円の為替レート、日本の株式相場などが含まれます。

2004年度見通し(受注)

(億円)

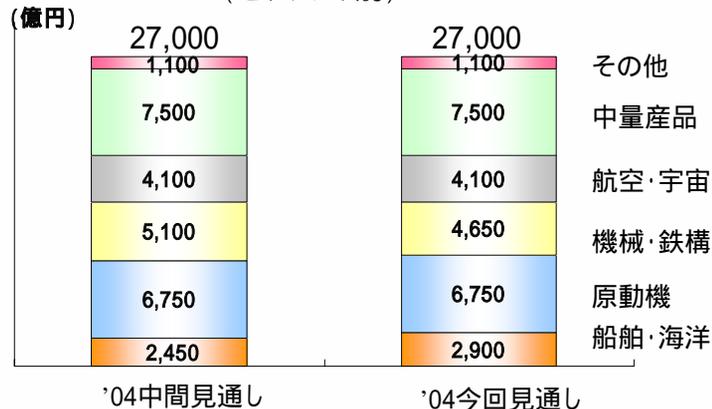
	'04中間 見通し	'04今回 見通し
連結	27,000	27,000
単独	22,000	22,000
(うち輸出)	(9,700)	(10,000)

総括

社会計の見通しは変更なし。

セグメント別内訳は以下の通り見直し。

< 連結受注の推移 >
(セグメント別)



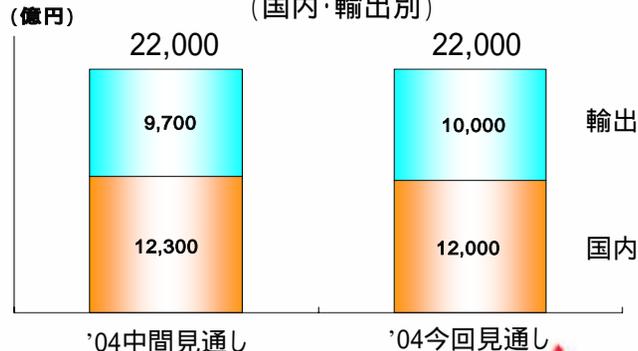
船舶・海洋 + 450億円

・新造船市場の需要活況が継続、客先計画の前倒しもあり、計画を超過達成見込み

機械・鉄構 450億円

・環境装置を中心とした国内案件の減少、及び輸出案件等の計画繰延べ懸念

< 単独受注の推移 >
(国内・輸出別)



中量産品 ±0億円

(汎用機・特車 + 150億円
産業機械 150億円)

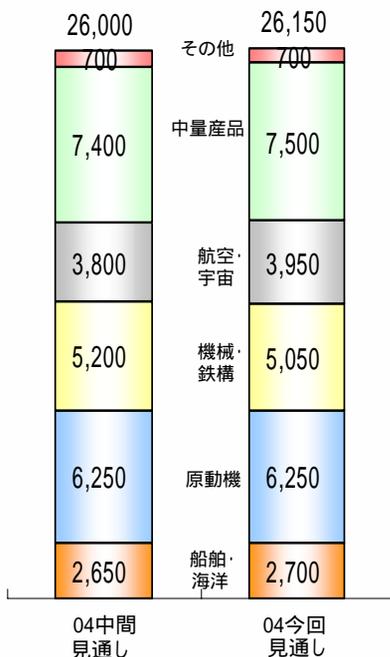
・汎用機・特車: 輸出フォークリフト、エンジンの受注好調
・産業機械: 輸出案件の計画繰延べ懸念

2004年度見通し (売上・損益)

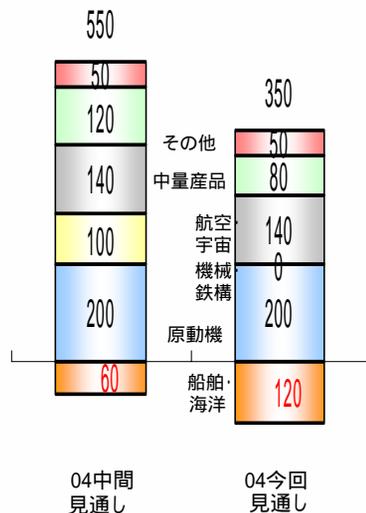
(億円)

	04中間 見通し	04今回 見通し
売上	26,000	26,150
営業損益	550	350
経常損益	370	170
税引前損益	370	170

< 連結売上の推移 >
(セグメント別)



< 連結営業損益の推移 >
(セグメント別)



売上

[+150億円]

期初見通しを変更

- ・船舶・海洋 +50億円 : 修繕船の増加
- ・機械・鉄構 150億円 : 港湾関連機器、文化スポーツ施設等の減少
- ・航空・宇宙 +150億円 : F-2進捗率増加、ホンバルディア向引渡機数増加
- ・中量産品 +100億円 :
 汎用機・特車(+200億円) : エンジン、フォークリフトの受注好調
 産業機械(-100億円) : 押出成形機、食品機械、製紙機械の減少

損益

[営業損益 200億円
税引前損益 200億円]

期初見通しを変更

- ・船舶・海洋 60億円 : 資材費高騰、鋼材需給逼迫等による工程挽回費用増
- ・機械・鉄構 100億円 : 売上減少
工事コスト増加、資材費高騰
- ・中量産品 40億円 : 売上減少
(押出成形機、食品機械、製紙機械)
資材費高騰、工費増加

2004年度 通期の業績見通し(単独)

(年度)

(単位:億円)

		'04		
		中間見通し	今回見通し	増減
受	注 高	22,000	22,000	-
売	上 高	21,500	21,400	100
営	業 損 益	360	160	200
経	常 損 益	200	0	200
税	引 前 損 益	200	0	200
当	年 度 損 益	100	0	100
一 株 当 たり	中 間 配 当 金	0 円	0 円	
配 当 金	年 間 配 当 金	4 円	4 円	

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことは控えるようお願い致します。実際の業績は様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることを御承知おき下さい。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社の事業領域をとりまく経済情勢、対米ドルをはじめとする円の為替レート、日本の株式相場などが含まれます。